

難民救援に「善意の輪」

備前一宮郵便局が呼びかけ

提供タオル、1900枚に



日用品の不足に悩む旧ユーゴスラビアの難民にタオルを送ろうと、岡山市一宮山崎の備前一宮郵便局（村野陽治局長）が来局者らに提供を呼びかけたところ、

六日までに約千九百枚が集まった。予想を上回る「善意の輪」に同郵便局はうれしい悲鳴を上げている。タオルは七日に発送、現地で支援活動を行っている日本緊急救援NGOグループ（JEN）の手で現地の人たちに配られる。

同郵便局近くに本部を置くAMD A（アジア医師連絡協議会）から現地の状況を聞き、「自分たちもできることで協力しよう」とタオルの収集を思い立った。十月はじめに局内に張り紙

と段ボール箱を設置、配達先や同市内の各郵便局などからも協力を得た。当初、JENのメンバーが年内に訪問する難民七百五十家族分を目標にしていたが、「一人で十枚以上持って来る人もいるほど」（片上靖彦局長代理）反響は大きく、二カ月に倍以上の約千八百枚が集まった。

同郵便局は職員有志が「ボランティア活動を促進する会」（三十四人）を先月末に結成したばかり。村野局長は「予想以上の反応で驚いている。これからも地域に根ざしたボランティア活動に取り組みたい」と話している。タオルは年内いっぱい受け付ける。問い合わせは同郵便局（0886・284・0100）。

くらし・交流

